



夏休みの旅行の思い出

写真を撮るようになってから、すっかり海外旅行が好きになった。アジアだろうがヨーロッパだろうが、どこに行っても魅力的な被写体ばかりである。

ここ数年で一番印象に残っているのは、一昨年の夏休みに訪れたイタリア(シエナ3泊、ヴェネチア3泊)の旅。私たち夫婦と、私の大学時代の友人2名の計4名の珍道中であるが、友人のうちの一人がヴェネチアにある有名な歌劇場(フェニーチェ劇場)の「日本友の会事務局長」という肩書きをもつ大学教授で、イタリアには100回近くも行っている超イタリア狂だったため、もちろんイタリア語はペラペラだし、大学教授という職から想像できるように(世界史教諭という職からも想像できるが…笑)、名所旧跡・美術品、音楽などの解説が大好きということもあって、私にとっては初めてだったイタリア旅行も十二分に堪能できるものとなった。

シエナはトスカナ地方という内陸にある美しい町、一方ヴェネチアはご存じの通りの海洋都市で、陸海の美食を尽くしたということでも楽しい旅行だった(日本では10万円を超えるというワインの試飲もしたが、その価値を認識することはできなかった…笑)。

夏のイタリアでは夕食は外ですることが多いのだが、この外での食事の気持ちよさにはすっかり病みつきになってしまった。もちろん美しい風景を写真に納めることもできたし、遠慮のいらぬ学生時代の仲間との旅行は本当に楽しかった。

*

海外旅行で同じところを訪ねることはあまりないのだが、イギリスには2回出かけた。

イギリスのいいところは、日本と同じ左側通行で車も右ハンドルだから、レンタカーを借りて気ままな旅行ができるところである。

かつて我が家にホームステイしたことのある女性が(マンUで有名な)マンチェスターの側の町に住んでいて、しかも、私の主人がイギリスに6ヶ月ほど留学した時にその女性と旧交を温め直した関係から、1度目はその女性の結婚式にご招待されたのである。せっかくなので、私の両親も連れて4人で出席してきた(主人と母は和服で式に出席した)。イギリス式結婚式も体験できたし、ピークデイストリクト国立公園を訪ねたり、公園内のベッドアンドブレイクファストに泊まったりと、家族水入らずの楽しい時間を過ごせた。

で、味をしめて、主人の両親も連れて行くということになり(高齢者でも車だから可能なのである)、再度私の両親も連れて計6名で、ピーターラビットでも有名な「湖水地方」(レイク・デイストリクト)に出かけてきた。風景は本当に美しく、かつ、イギリスの地方都市には親切な人も多くて、これまた楽しい旅行ができた。

*

旅行に出かける時は「ありがとう」くらいは現地語でしゃべれるようにしておくが、小心な私は「トイレはどこ？」のフレーズも覚えておく。そのことを件のイタリア通の友だちに言ったところ、「そんなイタリア語で質問したらイタリア語で返されるぞ。その時理解できるのか？」と言われて「なるほどなあ〜」と納得。さすが旅のベテランである。緊急時にはやはりボディランゲージか(笑)